



# こまくさ

平成29年  
12月1日(金)  
No.34

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

今日から師走です。保護者の皆様にとって今年はどういう年でしたでしょうか。学校は保護者の皆様方、地域の皆様方からご協力いただき、研究に邁進した年でした。もちろん生活科・総合的な学習の時間だけではなく、他の教科等も頑張っています。指導要領(国の指導方針)が変更になり、これから色々変わります。その一つが道徳の時間です。参観日には、全校で道徳の時間を見ていただきます。案内にもあったように、資料だけに頼るのではなく、より子どもたちの体験や心情が話し合いによってクローズアップされる授業になります。私たちもまだ手探りで進めている状態です。今後の参考にしますので、懇談で思ったことをどんどんお話しください。英語・外国語活動についてはまた別の機会にお知らせします。

今回は、昨日行った図書委員会の集会の様子を中心にお届けします。

なお、3日の日曜日、ふれあい体育館で柔道の大会があります。応援をお願いします。

## 図書集会

今年の図書集会は、図書委員、アトリエの皆さんとコラボして全校に読み聞かせを行う活動をしました。

練習時間をなかなかとれない中、委員長の6年S.さん(写真①)を中心に、進んで役割分担したり練習したりしました。アトリエの皆さんは、小学生だから、もっと手助けが必要だろうと思っていたのにS.さんのリードの下きちんと活動していてすばらしかったと話していました。



《読み合わせをする図書委員と本番の発表》

本番もすばらしい集会になりました。読んでくれた作品は、「ぼくはカメレオン」と「銀河鉄道の夜」です。声とBGM、歌で雰囲気はばっちりでした。聞く方も真剣に聞いていました(写真②)。



①

最後の感想発表では、6年C.さん(写真③右)が、「国語で『やまなし』の勉強をして、宮沢賢治さんのほかの作品を読みたいと思っていました。今日、『銀河鉄道の夜』を読んでくれて嬉しかったです。」と話していました。国語の時間よく勉強していますね。感心しました。



②



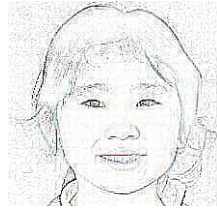
③

図書委員の活躍で、読書活動も盛んです。図書委員が企画してくれた校内読書感想文コンクールで、金賞をもらった人と、大曲仙北の読書感想文コンクールで入賞した友達の作品を、数回に分けてお届けします。



ポカポカ  
ホテル  
二年

私は、今年の夏は、雨の日ばかりだったので、この本の題名を見てポカポカして、暖かそうだと思います。読んでみると、キツネが色々なスリッパを集めて、木にぶら下げていました。スリッパのなる木に見えました。スリッパの中に、色々な動物や虫が、冬ごもりをしていて、気持ちよさそうだなと感じました。ポカポカホテルの受付のキツネも、嬉しそうだったので、私も温かい気持ちになりました。



火曜日  
はトラ  
ブルを  
読んで  
三年

私が、なぜこの本を選んだかというところ、この本のシリーズが姉が読んでいたからです。その中でも、この本の題名が気に入ったので読んでみました。この本は、お裁縫魔女のシルクと人間のナナがリフォーム店

で働いているお話です。猫のロットンは、召使いで、紅茶を入れるのがとても上手です。ある日、シルクのリフォーム店へ、女王様のアイロン係のスビネットが、洋服を直しにやってきました。なぜか、火曜日になると代々引き継がれた女王様の洋服にアイロンの焦げをつけてしまうというのです。そして、十一着全て焦がしてしまいました。シルクは、元の洋服よりも、女王様に合う服にリフォームしました。それを着た女王様は、今までで一番美しく心も優しくなりました。

私が一番心に残ったのは、女王様が、始めは由緒正しい服の方がよい服だと思っていました。自分が、自分に合う服の方が美しく、自分らしくなって、代々引き継がれている事を書いた手帳を捨ててしまったところ。なぜなら、自分の嫌いな服を着たり、指示されて生きていても心が楽しくないし、毎日がつまらないからです。女王様は、その殻を破ったのです。

私は、古いしきたりが全て悪いとは思いませんが、自分に合う服を着た女王様のように、自由に生きていきたいです。



めぎせ、動物  
のお医者さん  
四年  
S.

この物語は、主人公の翔太君が自分の飼い猫を救ってくれた獣医さんに憧れて自分も獣医さんを目指すお話です。

私は「ペットを治すことは大事だが、飼い主の気持ちも大事なんだ。飼い主はペットにとって家族だから、そこまで考えるのも僕の仕事になってゴンが教えてくれた気がする。」と言った獣医さんがとてもカッコいいと思いました。

私は、将来保育園の先生になりたいと思っています。獣医さんは動物に嫌われながらも命を助けるために頑張っています。保育園の先生は子どもに嫌われることも困ってしまうし、お互いに毎日楽しくなくなると思います。だから、獣医さんが話す事のできない犬や猫の気持ちを大事にするように、私も保育園の先生になったら、子どもたちといっぱいお話をしたり遊んだりして子どもたちの気持ちを少しでも分かってあげたいです。

思いました。まだ話す事のできない赤ちゃんにも抱っこをしたりどんな気持ちなのかを考えたようにしてあげたいと思いました。獣医さんが犬や猫の家族に頼られたように、私もそういう保育園の先生になりたいです。

また、この獣医さんの飼っていた犬が死んでしまい、自分が助けてあげられなかったことがきっかけで、獣医さんをやるつもりになりました。獣医さんは、自分ももっと勉強していれば助けられたかもしれないと後悔していたけれど、私も自分がそうになったら同じく後悔していたかもしれないです。でも、獣医さんは、「どれだけ長く生きたかより、どれだけ飼い主に愛されたかの方が大事だよな。」と言って少しずつ元気を取り戻していきました。その言葉は、とても大切な言葉だと思いました。

私も将来保育園の先生になることを目指して、翔太君のように積極的に保育園の先生のお仕事をのぞきたいと思っています。